

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22730568

研究課題名(和文)「攻撃性と安全基地スクリプトアセスメント法」による愛着パターン分類についての研究

研究課題名(英文)Development of narrative assessment of secure base for attachment classification

研究代表者

工藤 晋平(Kudo, Shimpei)

京都大学・グローバル生存学大学院連携ユニット・特定准教授

研究者番号：70435064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：成人の臨床的介入のために用いられる成人愛着面接(AAI)に代わる、より簡便なツール(NaS法、NaSA法)の開発を行なった。刺激語を提示し、物語を作成してもらい、物語を7件法で評定するとともに、AAIと同様の分類を行なうためのコーディング・マニュアルを作成を試みた。2歳から6歳の子どもの持つ母親に調査を実施した結果、NaS法、NaSA法の評定は言語能力とは関連がなく(弁別的妥当性)、AAIの4分類との一致率はNaS法で84.6%、NaSA法で69.2%と高い、あるいは一定の関連を示した(収束的妥当性)。今後の臨床への活用が期待される。

研究成果の概要(英文)：This research conducted the development of a new useful and brief assessment tool which can be used as substitution of the AAI that is standard assessment tool to capture individual's attachment representation in clinical and research settings. New method called NaS and NaSA require individuals to make stories using prompt words, and the stories are scored in 7-point scale. Data are taken from 26 mothers who have 2-6 years old children. The results showed rates of stories of the NaS and NaSA are not related to verbal comprehension (measured by WAIS-III subtest) and corresponded with AAI classification was 84.6% and 69.2% for NaS and NaSA respectively. It implies their usefulness in clinical and research settings in place of AAI.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：愛着 表象 心理検査 攻撃性

1. 研究開始当初の背景

子どもや成人の心理的、発達の、精神病理的な問題の背景に幼少期からのパーソナリティの発達を見る愛着理論は、2000年に入ってから実証的知見を蓄積し、その臨床的適用を果たしてきた。とりわけ成人への介入においては介入のためのアセスメント、あるいは効果検証のツールとして、成人愛着面接 (AAI: Adult Attachment Interview) (Main et al., 1985) を提供することで、独自の寄与を果たしている。

AAI は幼少期の親子関係について尋ね、その語りを分析することで、安定した関係を築くための個人の内的資源の在り方を捉える半構造化面接法であり、臨床場面においても、研究においても広く用いられてきている。特にこの面接法によって捉えられる分類、未解決型 (Ud) は心理学的、精神科的問題を抱えた人に多く見られるものであるため、これを分類できることがこの測定法の有用性を高めてきた。

しかしながら、この方法は、実施、逐語録作成、分析といった手続きに多大な時間を要するものであり、またこの分析のためには長期にわたるトレーニングが欠かせないということもあり、日常の臨床では用いにくいという問題点も存在していた。そのため、より簡便なツールの開発が待たれてもいて、本研究ではその試みとして Waters et al. (2007) らの作成した安全基地スク립ト法日本語版 (NaS: Narrative Assessment of Secure base) (工藤・梅村, 2010) に注目している。

これは提示された刺激語によって物語を作ってもらい、その物語を Waters らが定めた安全基地スク립トと照らし合わせ、7件法で評定することで、個人の安定した関係を築く内的な資源を捉えるものである。その利点は第1に実施、逐語録作成、分析が短時間で終わることにあり、実施、評定において約3分の1の時間で終わることができる。第2に AAI における心の安定性との関連が示されているため、AAI に代わる新しいツールとして期待されるものとなっていることがあげられる。

とはいえ、現段階においては AAI を置き換えるだけの特徴は備えておらず、それはなにより AAI が行なうような分類、とりわけ未解決型 (Ud) の抽出ができないという点にある。また多くの先行研究が AAI における愛着分類をもとに議論を展開させており、その意味で愛着分類を提供しない安全基地スク립ト法は、共通の基盤に立って議論に参加できないという短所があった。臨床の場における使用においても、先行研究の蓄積、病理的分類とされる未解決型を取り出せない点で、やはり AAI に一日の長があると言わざるを得なかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、NaS 法について、AAI

と同様の分類を行なうための評定方法を確立し、今後の研究、臨床における活用を促すための基盤を整えることである。工藤・梅村 (2010) においては、NaS 法に加えて、より心の安全性に関わる問題である攻撃性に関する刺激語を組み込んだ改訂版 (NaSA: Narrative Assessment of Secure base and Aggression) も作成したが、そこでは作成された物語の量と質の問題、「キャンプ旅行」の物語の作成困難も指摘されており、その要因として教示の問題、刺激語の翻訳、選択といった課題があげられていた。それらに取り組みすることも本研究の目的の1つである。

3. 研究の方法

(1) 予備調査

初めに、工藤・梅村 (2010) による NaS 法、NaSA 法で見出された課題を解決するために、訳語を検討し、「キャンプ旅行」に代わるものとして「高原旅行」を作成し、新版とした。さらに日本では物語を作ること自体への困難が見られることも考慮し、教示について実際に物語を作って見せるという手続きを加え、実施の手引きを作成した。なお、教示の刺激語は愛着とは関連のない中性刺激語であり、スクリプト研究でしばしば言及される「レストラン」のスクリプト (Schank & Abelson, 1977) を参考にしている。これらの改訂によって物語作成上の改善が見られるかどうかを検討するための予備的調査を行なった。

道具：年齢、子どもの数などを尋ねるフェイスシート、NaS 法、NaSA 法新版。それぞれの刺激語を以下に示す。

表1 教示

物語	刺激語
(中性の物語)	
公園	男性、おすすめ、料理、ウェイトレス、迷う、おつり、メニュー、注文、コーヒー、席、バスタ、帰る

表2 NaS 法

物語	刺激語
(中性の物語)	
公園	女の子、ぶらんこ、疲れた、自転車、砂場、ベンチ、公園、ゲーム、マンガ、友達、走る、コーラ
午後の買い物	女性、見て回る、空腹、車、買う、食べ物、デパート、お金、話す、友達、贈り物、家
(安全基地の物語)	
赤ちゃんの朝	お母さん、抱っこ、ぬいぐるみ、赤ちゃん、笑う、なくす、遊ぶ、お話、みつけた、毛布、ふり、昼寝
病院	子ども、急ぐ、お母さん、自転車、お医者さん、おもちゃ、けが、泣く、止まる、お母さん、注射、抱く
高原旅行	女性、宿、夕食、男性、分かれ道、音、バッグ、迷う、暗がり、急ぐ、動揺する、だきしめる
事故	女性、待つ、家、道、男性、夕食、事故、涙、ベッド、病院、医者、だきしめる

表3 NaSA 法

物語	刺激語
(安全基地と攻撃性の物語)	
赤ちゃん	お母さん、抱っこ、ぬいぐるみ、赤ちゃん、の朝
	泣く、なくす、ぐずる、お話、みつけた、毛布、蹴る、昼寝
病院	子ども、不機嫌、お母さん、自転車、お医者さん、おもちゃ、けが、泣く、止まる、お母さん、注射、抱く
高原旅行	女性、宿、夕食、男性、分かれ道、責める、バッグ、迷う、暗がり、急ぐ、動揺する、だきしめる
事故	女性、遊び、家、道、男性、夕食、事故、怒る、ベッド、病院、医者、だきしめる

対象者：Waters et al. (2007)にならい、2歳から6歳の子どもの持つ母親を対象とした。A幼稚園に子どもが通う母親に調査協力の依頼を行ない、10人(平均年齢37歳、子どもの数平均2.6人)の母親から協力を得た。調査に際しては協力は任意であること、また調査開始後であっても参加中止が出来ることを説明し、書面にて同意を得た。

方法：新版のNaS法およびNaSA法として作成した刺激語、および実施のためのマニュアルに則って個別に調査を実施した。刺激語の提示から物語作成の手続きはすべて録音され、後に逐語録に起こされた。

結果：作成された物語の文字数は平均490文字であり、Waters et al. (2007)らの報告する150-300単語と比較して(英語の単語数に対する日本語の文字数は2~3倍と言われている)、同程度の物語の量であったといえる。また、Waters et al. (2007)らによる評定において安定した愛着に関する内的状態を示す基準となる4点以上の物語が50%の母親に観察された。AAIにおける安定型(F)の分布は約4割であり、すべての母親が安定した愛着に関する心の状態にあるわけではないことを考えると、今回改訂した新版では、物語の質においてもある程度の愛着に関連した心の状態を捉える刺激語としての構成を持つことが示唆されたと考えられた。なお、工藤・梅村(2010)における4点以上の調査協力者(大学生)の割合は29%であった。

## (2) 本調査

上記の結果に基づいて、新版のNaS法、NaSA法を用いて、本調査を行なった。対象者：予備調査と同様、先行研究にならって2歳から6歳の子どもの持つ母親を対象にB地域の保育園に調査協力の依頼を行い、予備調査と同様の手続きのもと、個別に調査を行なった。調査票などに不備のあった対象者を除き、分析対象となった調査協力者は26人(平均年齢35.5歳、子どもの数平均2.1人)であった。

なお、第1子の平均年齢は5.5歳、第2子の平均年齢は3.7歳、第3子は2.8歳であった。2名が離別または内縁関係にあり、既婚者の婚姻継続年数は平均7.5年、38%が常勤の仕事を持っていた。

道具：

NaS法、NaSA法：新版

AAI：収束的妥当性の検討

WAIS-III：NaS法、NaSA法、およびAAIはいずれも逐語録を分析することで愛着に関する心の状態を捉えようとするものである。そのため、得られる結果が言語能力に左右される可能性もある。これを除外し、弁別的妥当性を検討するために、WAIS-IIIの言語理解の項目(単語、類似、知識)を使用して言語能力を測定した。

## 4. 研究成果

### (1)

はじめに、調査協力者におけるAAIの3分類、および4分類の分布を以下に示す。

表4 AAIによる愛着分類

	F	Ds	E	Ud
3分類	38.5%	53.8%	7.7%	--
4分類	30.8%	23.1%	7.7%	38.5%

今回の調査対象者は先行研究に比べるとDs、およびUdに分類される調査協力者が多かった。特に未解決型(Ud)について、非臨床群における分布は約20%(van IJzendoorn & Bakermans-Kranenburg, 1996)と言われているのに比べると、高い値と言える。

### (2)

次に、予備調査同様、NaS法、NaSA法において作成された物語の量的側面について検討するため、各物語の文字数の平均を算出したところ、以下のようになった。

表5 各物語の文字数の平均(SD)

	朝	病院	旅行	事故
NaS	557.5 (246.9)	505.2 (233.3)	545.5 (209.7)	448.8 (178.2)
NaSA	521.0 (175.2)	489.1 (192.2)	566.9 (224.0)	451.2 (240.4)

予備調査におけるよりも高い値であり、少なくとも物語の文字数という側面において、十分な物語を作れるような教示と刺激語であったことが再度確認された。

### (3)

続いて、Waters et al. (2007)の評定法にしたがって、それぞれの物語について、その安定性を7件法で評定した。その結果を以下に示す。

表6 各物語の評定の平均(SD)

	朝	病院	旅行	事故	全体
NaS	3.2 (1.92)	2.6 (1.45)	2.8 (1.01)	2.8 (1.42)	2.8 (1.13)
NaSA	2.9 (1.66)	2.2 (1.36)	2.2 (1.42)	2.1 (1.26)	2.4 (1.21)

ここに示された通り、各物語およびNaS法、NaSA法全体の平均は安定した愛着に関する内的状態を示す基準点4点よりも低く、安定しない物語が作られたことが示されている。

### (4)

しかしながら、今回の調査協力者には4分類においてUdに分類される人が多く、その

ことが評定の低さに関係していることも考えられた。そこで、調査協力者をAAIに基づいて安定型(F)と不安定型(Ds, E, U)に、またNaS法、NaSA法の基準4点以上と3点以下の2群に分け、2×2のクロス集計を行なった。その結果、一致率(物語の評点が4点以上で安定型、または評点が3点以下で不安定型)は69.2%-92.3%と高い値を示した。正確確率検定を行なったところ、8つの物語のうち、NaS法の「病院」、NaSA法の「旅行」、「事故」をのぞく5つの物語で有意な関連が見られた。しかしNaS法全体ではAAIの2分類との有意な関連は見られず、NaSA法全体ではと有意傾向に留まった。

他方、安定型と不安定型のそれぞれにおいて、物語の評定平均を算出し、t検定を行なったところ、クロス集計と同様の5つの物語、およびNaS法、NaSA法全体の平均に安定-不安定間の有意な差が見られた。なお、表は4分類に基づいて安定型-不安定型を分けた結果のみを示している。

表7 各物語の安定型-不安定型別平均(SD)

	朝	病院	旅行	事故	全体
NaS法					
安定型	5.0 (1.16)	4.0 (0.82)	3.5 (0.58)	4.3 (0.50)	4.2 (0.43)
不安定型	2.4 (1.67)	2.0 (1.23)	2.4 (1.01)	2.1 (1.17)	2.3 (0.75)
NaSA法					
安定型	4.5 (0.58)	3.8 (1.26)	3.8 (1.50)	3.5 (1.00)	3.9 (0.67)
不安定型	2.2 (1.48)	1.6 (0.73)	1.6 (0.73)	1.4 (0.73)	1.7 (0.62)

この結果からはAAIの安定型と不安定型の間にNaS法、NaSA法の得点の違いがあることが示されている。しかし、それでもなお、安定型の評定平均は低い値に留まっており、生成される物語の質の問題は今後の検討課題として残された。

(5)

NaS法、NaSA法の各物語、および全体の評定とWAIS-IIIにおける言語理解下位検査、絵画配列検査の得点(粗点を使用)の関連を調べるために、相関係数を算出したところ、言語理解下位検査の粗点との相関はいずれも有意ではなく、したがって、NaS法、NaSA法の評定は言語能力とは関連しないことが示された。しかし、絵画配列については、NaSA法の「赤ちゃんの朝」「病院」および全体の評定との相関が有意となり、中程度の相関があることが示された。絵画配列は動作性知能に分類されるが、非言語性ではあるものの文脈理解を問うものであり、NaSA法では愛着に関する心の状態ではなく、文脈を理解する能力によって評定が左右される可能性があることが示唆された。

(6)

最後に、NaS法、NaSA法の逐語録からAAI同様の分類を行なうためのコーディング・マニュアルを新たに作成した。Waters et

al. (2007)による安全基地スクリプトにならない、物語を大きく3つの部分(不安の喚起、愛着行動-応答性の相互作用、解決・回復)に分け、それぞれについてコーディングを行なうとともに、全体に渡るコーディングについても検討するものとなっている。

不安の喚起:物語の第1段階であり、これから起こる苦痛な状況につながる導入的、状況説明的な描写、およびそれに続く苦痛な状況の発生とそれへの反応が描かれる。不安や苦痛が描かれるか、それとも回避されるか(Ds)、あるいは子どもの物語において助けとなるはずの母親に不安や苦痛が割り当てられるか(E)がここでの観点の1つである。むしろ親が苦痛の源泉であることはUdの指標となる。

相互作用:苦痛をもたらす出来事とそれによって引き起こされた苦痛へ対応するために、苦痛な側には愛着行動が、他方にはそれに対する応答的な対応が引き出され、その相互作用が描かれる部分である。一方の苦痛への応答的な反応が描かれるか、情緒的でない描写や苦痛な側が苦痛を訴えない描写があるか(Ds)、あるいは一方の苦痛に他方が同調し、あるいは我慢や努力を強いるか(E)といった点がコーディングの観点となる。相互作用の描写が無力、虐待的、混乱したものとなっている時にはUdが付けられる。

解決:物語の最後の段階で、解決や回復といった安全な状態の達成が描かれる部分となる。相互作用の中で解決が描かれるか、そうした具体的な描写なしに解決が素早く達成されるか(Ds)、あるいは解決に至らなかったり不幸な終わり方をするか(E)といった観点からコーディングが行われる。一定の筋書きで進んできた物語が最後に奇妙な終わり方をする時にはUdがコードされる。

全体:物語を形作ることや物語ることの中に折り込まれてくる諸特徴のコーディングであり、物語の内容よりもどのように物語が語られているか、という、その構造化、語り方の方により明確に重心を置いている。没個人的な描写がなされるか(Ds)、刺激語を用いた人物の説明や教示にも関わらず親密な関係でない物語を作るなど物語ることそのものの困難(Ud)がコードされる。

分類:このマニュアルに基づいて、コーディングを行い、NaS法、NaSA法それぞれの物語のコーディングにUdの指標が1つでもあればUdに、それ以外の指標が3つ以上あればDsまたはEいずれかが優勢な方に分類される。臨床的な活用を目的としており、とりわけUdの識別が重視されているため、分類は4分類(F, Ds, E, Ud)のみであり、3分類については検討されていない。

(7)

このマニュアルにしたがってコーディングを行なった結果、愛着分類は以下のような分布を示した。

表8 NaS法・NaSA法による愛着分類

	F	Ds	E	Ud
NaS	30.8%	23.1%	7.7%	38.5%
NaSA	30.8%	15.4%	15.4%	38.5%

AAI における 4 分類との一致率は NaS 法で 84.6%、NaSA 法で 69.2%、Fisher の正確確率検定を行なったところ有意な関連（それぞれ  $p < .001$ 、 $p < .01$ ）が見られた。また係数を算出したところ、NaS 法においては.78（ $p < .001$ ）とかなりの一致を示し、NaSA 法においても.57（ $p < .001$ ）と中程度の一致を示した。

**(8)**

いくつかの課題は示されたものの、NaS 法、NaSA 法はいずれも今後の活用が期待されるツールであり、今回作成したコーディング・マニュアルによって AAI 同様の分類が可能となることが示唆されたと考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

工藤晋平・梅村比丘（2010）安全基地スクリプト法による愛着表象測定と親密な関係における攻撃性との関連：予備的報告 広島国際大学心理臨床センター紀要，第 8・9 巻，23-34.

〔学会発表〕(計 1 件)

竹田収・田中晶子・工藤晋平・門本泉（2013）ミニ・シンポジウム「非行・犯罪臨床における半構造化面接の活用可能性について」日本犯罪心理学会第 51 回大会，18.

〔図書〕(計 1 件)

工藤晋平（2012）元受刑者の社会復帰支援におけるアタッチメントの病理と理解 数井みゆき（編著）「アタッチメントと実践の応用」誠信書房 pp.192-209.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

工藤 晋平 (KUDO, Shimpei)

京都大学・グローバル生存学大学院連携ユ

ニット・特定准教授

研究者番号：70435064